

国立和歌山病院 実習感想文



菊地 めぐみ

今回、呼吸器内科のポリクリ実習の一部として、国立和歌山病院にて二日間実習させていただきました。大学病院とは全く雰囲気が異なり、なによりも南方医院長の独特で惹きつけられる講義がとても印象に残りました。去年1年間臨床医学を学んできましたが、南方先生と話をしているうちに自分が去年言葉を暗記するだけの勉強を行っていたことを気づかされ、どのようにして理解するか、覚えるか、自分で工夫して考えて分析することが医師そして医学の根本にあるということを再確認することができました。このことをポリクリ実習の初期段階で気づき、これからの実習に対する姿勢を見直す機会をいただけたことは本当によかったと思っています。

また、南方先生以外にも駿田副院長・柳本呼吸器センター長・小野先生にも大変お世話になり、親身に結核、酸素療法など様々なことについて教えていただきました。座学だけでなく、「陰圧室とはどのような部屋か」、「酸素療法の機器はどのように使うのか、患者さんは実際にどのように感じているだろうか」、「レントゲンを見て実際に分析してみよう」というように実践的なことを勉強することができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。教科書を読むだけでなく、実際に触れたり、見たり、感じたりする勉強の楽しさを徐々に感じたように思います。

この二日間で学んだことをこれからの実習、また医師になってからも忘れず、南方先生がおっしゃっていたような、患者さんの望んでいることフィードバックできるいい医師、を目指していきたいと思っています。

今回の実習にかかわっていただいたスタッフの皆様に感謝します。ありがとうございました。